

いそくに伊名ととも世を右に流すをばを
秀吉に切腹させよとの旨をいつて内務をさ
ううと走しゆく来しと宿をううして討決を
すきくともくくうの香をきくは上し
うし是れ依て赤脇公法長を果て是れを同
ひひひらにふまて天の無ひはんあく秀吉
と誅戮せよとておしとすもくく毎ありりり
赤脇公法長をいつやくと後を義士のせふと
りり秀吉は是れ思ひ来りし事業はた一つ
徳義あり秀吉千古を微賤の身なりとつと

もそをきくくもきくく赤脇天下に威名をよる
い日本に赤脇の力となりぬとの秀吉今に
あきハあをきく去年に法文を送しそつ
くくくくくくくくくくくくくくくく
くくくく今秀吉獨身を討めきと修ひ
一戦に及ぶくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくく赤脇苟く故誦伝の記式
を傳へ仁義をきり武勇をきり嗜くく名譽
と天下にのりりくくくくくくくくく
くんや夫大將のむきハ一戦に上り死せと争